

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1482
施設名	大宮保育園
施設所在地	東京都杉並区大宮2 - 16 - 16
法人名	社会福祉法人けいわ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂遊び（自然）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

園庭には砂場があり、季節を問わず子どもたちが興味のある場所となっているのでテーマとして設定をした。

2. 活動スケジュール

【0～5歳児クラス】

砂場で遊ぶ中で固まる不思議や、協力して作ることや、お友達と同じことをする楽しさを味わいながら、水を加えることで変化することに気づけるように取り組む。

【5歳児クラス】

電子顕微鏡を使い砂をみることで、大木さや色、模様等の違いに気づく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

砂場の砂を追加し、活動がしやすいようにした。型抜き玩具を増やし主体的に活動に取り組めるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

砂場での遊びをする中で様々な遊びがあることに気づき、やってみようとする。
水を加えることで感触や形状が変わる不思議さに気づき繰り返しやってみようとする。
他児や異年齢との関わりから新しい遊び方に気づく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

砂場では異年齢児と関わる事が多く、0、1、2歳児は保育者や他児の真似をして楽しむ姿が見られた。できると「できた!」と嬉しそうにしていたので「できたね」と共感すると「もう一個つくる」と何度も作る姿が見られた。日々の中で見たことや経験したことを砂場で再現する様子もあり「何作ってるの?」と聞くと「お好み焼き」と作っていた所を再現していた。水を使うことで砂が泥になりふるいにかけると砂だけが残る現象は子ども達にはとても不思議なようで何度も泥水をすくってはふるいに掛けたりしていた。

4.5歳児は協力してトンネルを作る姿があった。両側から掘りはじめ、なかなかつながらないことで、お互いの穴をのぞき込んだり、「もう少しかな」「がんばろう!」と励まし合う様子も見られた。ハンバーグを作り砂と水を混ぜたものをソースに見立てかけようとしたときに、泥水だけが出て砂がカップに残っているのを見て「なんでだろう?」と疑問に思ったようだった。保育者が「なんでだろうね。不思議だね」と気持ちに共感すると「もう一度作ってみると」繰り返していた。

5歳児クラスには電子顕微鏡で砂を見てもらった。砂を大きくして見ることで、「ごつごつしてる」「大きさがちがう」「模様がある」等様々な声が上がった。砂以外にも見てみたい意欲があり草や木の枝を見つけて見る姿があった。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

砂場は型抜きや見立て遊びをすることで子ども達が見たこと、やったことを再現できる場所なのだと改めて思った。また、保育者が見本を見せることでやってみようとする姿もあり保育者もどこまでできるのか試行錯誤しながら関わることができた。子どもの姿をしっかり見ることによって砂をバケツに入れる、ふるいにかける等子どもがどのような思いで行動をしているのかを考えるきっかけにもなったのではないかなと思う。